

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学経済学部2年 中馬 千陽

① 学習成果

・今回の派遣に参加する前とした後とで自分にどのような変化が起きたか

語学堂での学習を通して、ハードルの高いことに挑戦する抵抗がなくなったと感じる。授業では先生のおっしゃることに字幕がつく訳ではないので、聞き取って理解するしかない。その環境に三週間置かれたことで、案外できるものだ自信がついた。帰ってきてから、英語や韓国語のドラマ、バラエティを字幕なしで見てみた。今までは、字幕を見つつきちり聞き取ろうとして挫折していたものだが、完璧ではなくとも聞き取れるところを理解して文脈で繋ぐようにすると、意外とわかる部分も多かった。基礎からきっちり積み上げたり、完璧に理解することも大事ではあるが、部分的なスキルでも一度挑戦してみれば、そこから不足していることを補うというやり方で実力をつけられるのだと学んだ。他の学問でも、基礎から完璧にやろうとして挫折することが多いのだが、ざっとやって挑戦して、また立ち戻るというメソッドは有効ではないかと思った。

UICの生徒さんたちとの交流では刺激を受けた。グローバル化、という言葉はこれまでふわふわとした言葉でしかなかった。様々な国の人と関わりが増える時代、海外と仕事することの多い時代というような曖昧なイメージだったのだ。それが、「世界スケールで当たり前のように考える」ということなのだと、実感を持って理解した。UICの生徒さんたちは中国で生まれてアメリカで育ち、今は韓国で学んでいる、などいろいろな国にルーツを持っている人が多かった。私にとっては壮大なスケールの話で、海外というどうしても旅行・中学といった「外」のイメージだ。それに対して、東京生まれ京都市育ちとでもいうような普通の話のスケールで海外をわたり歩いている人がいる。その人たちにとって、他国は「外」ではなく、同じ世界の「内」なのではないかと思うようになったのが大きな気づきだ。

・今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったか

元タイギリス留学に行きたいと考えており、次に長期的に行くならイギリスの予定であることに変わりはない。

②で後述するが、今回の韓国留学は、似ている、近い国の文化を比べ、似ているからこそ気付ける違いを発見できたこと価値があった。そのため3週間過ごすまでもなく、比較的簡単に適応することができた。欧米となると韓国に行くのとは違い、随分環境が変わることだろう。似ているところを比較するというよりは大きく違うところに目がいくかもしれない。その意味で日本から離れたイギリスを選びたいと思う。加えて、UICの生徒さんたちの素晴らしい英語の実力に触れ、英語力の向上により熱意が湧いた。これから英語が使えるのと使えないのでは比べ物にならないほど選択肢が違ってくることを感じた。韓国語は日本語と文法が同じなので、頭から順番に話せるのが楽なところだが、英語は順序が違うのが難しい。読み書きと話せるのには大きなギャップを感じてしまう。英語力の向上と文化の違いの発見のため、留学を検討したいと思う。

② 海外での経験

韓国は考えていた以上に日本と似ているところが多い。形式や、公共設備にあり方など、韓国についた時も日本に帰ってきた時も似通っていて違和感をあまり覚えないうほどだった。だが、逆に似通っているからこそ、日本には絶対に気付けない細かなところにたくさん目がいった。具体的な話にはなるが、例えば、韓国ではエスカレーターの乗り口の真ん中にポールが立っていて左右に強制的に振り分けられるようになっている。駅の改札機も、日本のようなパタパタとしたドアは少なく、回転棒のようなものが付いている。トイレの水道は日本に多

いセンサータイプではなく、捻るのではなく、レバーを斜めに傾けるタイプが主だった。一方、お湯もでる蛇口は韓国の方が圧倒的に多かった。乗り換えではほとんどお金が掛からなかったり、タクシーが安く乗れたりする。コンビニは日本では自動ドアが多いし、外に商品が並べられていることはない。韓国では外にトイレトペーパーやお菓子が積まれておりスーパーに近い外観だ。2+1 といったお得なサービスは韓国特有のものだ。このように、似ているからこそ細かな違いに気づき、ではなぜそのような違いが生まれているのかと考えることが面白かった。その違いが国民性に合わせたものだから変えたら不都合が出るのか、それとも変えれば便利になるのか考えたいと思った。

もし一方の国のやり方の方がより便利なら、もう一方の国にそれを持ち込めばビジネスチャンスになるし、豊かにもなる。また、水道のあり方といった本当に細かな点における意思決定にも必ず理由があるはずだから、それを探ることは学びになるだろうと感じた。

③プログラム内容

授業では、読み書き話す聞くの4技能を満遍なく鍛える学習ができた。スライドに載っているイラストについて説明してみる学習では、なんとか知っている単語と文法で伝えようと努力する良い練習になった。このように、テンプレートだけで答えられない状況でも、なんとかしてみようという姿勢が、ショッピングや空港で店員さんと会話する時にも実際に役立った。

題材となる対話を音読する練習では、皆の実力がつきだすと、本を閉じ、見ずに先生の後につづいて声に出してみる練習をするようになった。知っている単語は意味を理解しているので難なく覚えられるが、知らない単語は音のまま覚えねばならず難しかった。だが、文脈から推量する力がついたし、先生の発音により注意して聞くようになり、発音練習に効果的だった。

授業は全て韓国語で、新出の語彙の説明すらも、英語や日本語を一切用いず、ジェスチャーと既知の韓国語を駆使して説明して下さった。この学びかたは今まで自分がとってきた学習と違う方法だった。英語を学習する際、英英辞典を使うと良いという学習法があるが、手間だと思い和訳のものばかり用いてきた。母国語との一対一対応で覚える方がスピードが出るというメリットもあるが、先生の動きや韓国語からなんとか単語の意味を理解しようと懸命に脳を働かせる過程は、母国語で意味を一瞬で知らされるよりもむしろ、記憶に残りやすいのではないかと感じた。

授業のあらゆる面で、自分の言葉で話してみる実践的な時間が取られていたのが非常に良かった。京都大学で第二外国語として学ぶときには、日本語から韓国語に直して覚える作業がメインだったのに対し、自分の口で話す少人数クラスでの授業は語学力の向上に大いに役立ったと感じる。また、平日の間毎日4時間韓国語だけを聴き続ける環境にいたことで、耳が随分慣れたと思う。日本語と文法が同じだからかもしれないが、韓国語で先生が話されていても、特に外国語を喋っているなという認識は少なく、自然と耳に流れ込んでくるような感じで聞いていられた。語学堂で過ごしていたので、延世大学の韓国の学生たちともっとかかわれても良かったと感じるが、それ以上に語学能力の向上という面から非常に成長を感じるプログラムだった。

④進路への影響について

②で前述した、日本と韓国の似ているが細かいところが違うという点に関する観察は、日頃ビジネスチャンスを見つけて生きようと心がけていることに起因する。志望理由で、起業を志しており、現時点では広告関係に興味があると述べた。韓国留学中も、韓国の広告を注視して見ており、日本にはない立体広告表現の仕方や、デザイン性、商品の売り出し方に学びが多かった。それに加えて、広告だけでなく、ビジネスアイデアの全般として刺激になる点が多々あった。韓国のタクシーがなぜ安いという話をルームメイトとした際、なぜ安くできるんだろう、日本でも安ければもっとみんな乗るだろうか、そもそもタクシーのターゲットは誰か、と話が広がった。

日本にいれば、タクシー＝高いものという固定観念にとらわれていただろう。同じ存在でも異なる性質の違いに気付かされる経験があったことで、思いつくものもあった。将来的に起業する意思に変化はないが、その内容に広がりがあったと感じる。

⑤ 韓国語で一言

한국 유학을 통해 앞으로 내가 세상을 향해 무엇을 이루고 싶은지 다시 한 번 진지하게 생각하게 되었다. 환경이 바뀌면서 하나의 전환점이 된 것 같기도 하고, 한국에서만 얻을 수 있는 만남도 있었다. 학생 생활에 있어서 중요한 경험이 되었다고 생각한다.

⑥ 延世大学校国際学部の講義を聴講した感想

カン先生の授業で印象に残っている点は二つある。一つは、歴史を事実として見るのではなく「アーギュメント」とおっしゃったことだ。歴史的な出来事を私たちが今この目で見ている訳ではない。きっとこうだっただろう、とアーギュメントを述べ合うからこそ、意見の相違が生まれる。韓国と日本の竹島に関する争いもこのような目線で捉えていらっしゃるからこそ、韓国の先生が日本人の大学生に話すという状況でも冷静に伝えられるのだと感じた。二つ目は、朴正熙の時代にどのように韓国が発展したのかとその弊害に関する話である。重工業ではなく軽工業に従事した理由、財閥を作り出した理由といった経済学部で学んでいる身として非常に興味深い話が多かった。経済の成長ばかりに目が行きがちだが、労働者がデモを起こそうとしたら警察が出動したり、低賃金を国が認めていたという凄惨な内容に、今までの自分に見えていなかった部分を意識した。